令和６年度秋田栄養短期大学データサイエンス・AI教育プログラム
自己点検・評価

Ⅰ．学内からの視点

１．プログラムの履修・修得状況

学生のデータサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、データサイエンス・AIを適切に理解し、それらを活用する基礎的な能力を育成することを目的として、「データサイエンス・AI教育プログラム」を令和５年度後期より開設した。

データサイエンス・AI教育プログラムでは、「情報処理演習B」（１単位）及び、「栄養情報処理演習」（１単位）の単位を修得（合計２単位）した学生に、「修了証」を発行することとしている。

２科目ともに１年時の開講科目であり、オリエンテーションにて学生に周知を図っている。

令和６年度の主な実績としては、文部科学省より「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定を受けたことが挙げられる。

各科目の受講者および修了者については、「情報処理演習 B」の履修者が１２名、「栄養情報処理演習の履修者」が１４名おり、令和５年度後期に「情報処理演習 B」の単位をすでに修得していた学生も含め、１２名がデータサイエンス・AI教育プログラムを修了した。

２．学修成果

令和６年度は、１２名の学生がデータサイエンス･AI教育プログラムの認定要件を満たし、「修了証」を修得した。令和５年度と比較し、修了者数に大きな変化はないが、前述のとおり文部科学省の「数理･データサイエンス･AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定を受けたことから、今後はより多くの履修者数が見込まれるため、引き続き履修者数･履修率の向上に向けた周知を図っていきたいと考えている。

３．学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

令和６年度の授業評価アンケートでは、「この授業は、わかりやすかったですか」という設問に対して、次のような結果となった。

・「情報処理演習B」　５点（６４％）、４点（２７％）、３点（９％）
・「栄養情報処理演習」５点（６９％）、４点（２３％）、３点（８％）

一方で、各科目の成績分布は次の結果となった。

・「情報処理演習 B」

履修者１２名中「秀（９０点以上)」　　３名
「優（８０点～８９点)」　８名
「履修取消」　　１名

・「栄養情報処理演習」

履修者１４名中「秀（９０点以上)」　　５名
「優（８０点～８９点)」　５名
「良（７０点～７９名)」　２名
「可（６０点～６９点)」　１名
「履修取消」　　１名

授業評価アンケートから、理解度については２科目ともに３点以上の評価がついているため概ね問題ないと思われるが、令和５年度と比較して５点の評価が減り、４点、３点の割合が増加しているためより一層、学生には分かりやすく、かつ、興味・関心の高まる授業として、科目担当者や FD 委員会と連携して、授業の評価、改善に向けた取り組みをしていきたい。

４．学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

令和６年度に実施した授業評価アンケートの結果では、７割以上の学生が、「授業の内容は興味が持てるものだったか」、「この授業に対する満足度」、「技術や実技などが身に付いたか」という設問に対して、５点または４点評価で回答していた。令和５年度と比較してこれらの項目においても、５点の評価が減り、４点、３点の割合が増加しているものの、２点、１点、０点といった低い評価はなかったため、受講した学生からは一定以上の興味・関心を得られていることがわかる。

今後、履修モデルやカリキュラムマップ、カリキュラムツリー等を活用し、推奨度を示していけるよう検討していきたいと考えている。

５．全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

前述のとおり、令和６年度は文部科学省より「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル)」の認定を受けることができた。

今後はより一層、履修者数・履修率向上に向け、データサイエンス・AI 教育プログラム推進会議で適宜、方法等を検討しながら、全学的な周知を図っていきたいと考えている。

Ⅱ.学外からの視点

１．教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

令和６年度は､データサイエンス･AI 教育プログラムを修了した卒業生を１１名輩出した。データサイエンス・AI 教育プログラム修了者の輩出は、令和６年度が初めてのことであるため、現時点では評価は難しい。

今後、「キャリアセンター」と連携し、卒業生や就職先の企業へのアンケート等を通じて、現状把握に努めていくとともに、今後のデータサイエンス・AI 教育プログラム改善に向けて検討していきたいと考えている。

２．産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

上記と同様である。

Ⅲ. 数理・データサイエンス・ＡＩを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

データサイエンス・AI 教育プログラム関係科目を基礎として、より実践的な各種実習科目への履修と繋げるため、カリキュラムツリー等を活用し、体系的に示している。

今後も適宜ガイダンス等で実践例を紹介しながら、学ぶ楽しさや意義等について情報発信をしていきたいと考えている。

Ⅳ. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

授業評価アンケートの結果を参考にしながら、データサイエンス・AI 教育プログラム推進会議、FD 委員会、科目担当者とで相互に連携しながら、適宜、学生の理解度を確認し、理解が遅れている学生への「個別指導」等を通じて、確実な知識の習得に努めていくことで、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業となるよう改善していきたい。

また、単位を修得できなかった学生や途中で履修放棄（履修取消）した学生の要因を検証することで、履修した全学生が単位を修得し、最終的には「修了証」の修得へと繋げていきたいと考えている。